

—鶴崎工業高校機械科実習棟改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

# 葛 木 遺 跡

2003

大分県教育委員会

## 序 文

本書は、大分県立鶴崎工業高等学校機械科実習棟改築工事に伴い、大分県教育委員会が平成13年度に実施した葛木遺跡の発掘調査報告書です。

当遺跡の所在する大分市大字葛木は、大野川左岸の鶴崎台地に位置します。この鶴崎台地の歴史は古く、旧石器時代に遡って、古代人の生活の跡を追うことができます。このたびの葛木遺跡発掘調査では、弥生時代を中心とする遺構・遺物などが発見されました。当遺跡の周辺には、同時代の遺跡である猪野遺跡、米良草遺跡、二目川遺跡等が知られており、今回の成果は、この地域における弥生時代の生活を解明する上で貴重な資料になるものと考えます。今後、この成果が広く活用され、郷土史の研究や埋蔵文化財についての理解が深められる一助となれば幸いです。

終わりに、調査に御協力いただきました関係各位、地元の方々に心から感謝を申し上げます。

平成15年3月29日

大分県教育委員会

教育長 石川 公一

## 例 言

1. 本書は大分県立鶴崎工業高等学校機械科実習棟改築工事に伴い大分県教育委員会が実施した葛木遺跡鶴崎工業高校地区の発掘調査報告書である。
2. 遺物の整理作業は大分県教育庁文化課文化財資料室で行った。
3. 遺跡・遺構の実測と撮影は調査担当者の甲斐寿義・細川 愛・東保春奈が行った。遺物の実測及びトレースは細川が主に行った。
4. 写真は甲斐・細川による。
5. 本書に用いた方位は磁北である。
6. 出土遺物並びに図面・写真等は文化財資料室で保管している。
7. 本書の執筆・編集は甲斐が行った。

## 目 次

第1章	はじめに	
1	調査に至る経緯	1
2	調査団の構成	1
第2章	遺跡の立地と環境	1~2
第3章	発掘調査の成果	
1	調査の経緯	4
2	調査の概要	4
3	遺構と遺物	5
	(1)弥生時代の遺構・遺物	5
	(2)その他の遺物	6
第4章	まとめ	6

## 挿 図 目 次

第1図	葛木遺跡の位置	2
第2図	葛木遺跡と周辺の遺跡	3
第3図	葛木遺跡周辺地形図	3
第4図	調査区付近拡大図	3
第5図	葛木遺跡遺構配置図	4
第6図	SH1実測図	5
第7図	SH1出土遺物実測図	5
第8図	その他遺物実測図	6

## 写 真 図 版

第1図	葛木遺跡遺景(南側)	7
第2図	葛木岡遺跡全景(北側)	7
第3図	遺物出土状況	8
第4図	SH1	8
第5図	SH1遠景	8
第6図	作業風景	9
第7図	作業風景	9
第8図	作業風景	9

## 第1章 はじめに

### 1. 調査に至る経緯

平成13年の4月に実施した大分県教育庁理財課関係の校舎等増改築工事に関する分布調査の結果、鶴崎工業高校機械科実習棟改築工事が明らかとなった。予定地が周知遺跡である葛木遺跡のため文化課では現存の機械科実習棟解体後の8月6日に立会い調査を行い、現地地表にある盛り土の下で弥生時代や中世の遺構や遺物を確認した。このため工事予定範囲について緊急に発掘調査を実施することとなった。

### 2. 調査団の構成

上松岡遺跡調査団の構成は、次のとおりである。

調査主体	大分県教育委員会		
調査総括	石川 公一	大分県教育委員会教育長	
	工藤 正徳	大分県教育庁文化課課長	
	麻生 祐治	同	参事兼課長補佐
	清水 宗昭	同	参事兼課長補佐
	高橋 信武	同	主幹
調査担当	甲斐 寿義	(大分県教育庁文化課主査)	
調査員	細川 愛	(同)	囑託)
	東保 春奈	(同)	囑託)
調査事務	西 哲弘	(同)	主幹)
	西森 公誠	(同)	主任)

## 第2章 遺跡の位置と環境

大分平野は九州の北東部に位置し、三方を九六位山、霊山、障子岳、高崎山、雨乞岳などの400m～800m級の山々が取り囲み、平野の中央部には大分県を代表する河川である大分川と大野川が北流する。鶴崎工業高校はこの大分平野の東部、大分市大字葛木に所在する。地形的には大野川左岸、標高165mの古城山を基部として南から北へ延び別府湾を望む洪積台地、いわゆる鶴崎台地と呼ばれる丘陵上の東端の標高約40mに立地している。遺跡の東は、大野川の侵食により崖となり大野川支流の乙津川を望む。

この段丘上の歴史は旧石器時代にさかのぼる。近年、大分県スポーツ公園建設に伴う緊急発掘調査で西日本でも有数の原産地遺跡である一方平Ⅰ遺跡が発掘されたことにより大規模な旧石器時代の遺跡の存在が明らかになった。一方平Ⅱ・Ⅲ遺跡、牧ノ内遺跡、九池遺跡、上牧ノ内Ⅱ遺跡では少数の石器や剥片類が、多武尾遺跡、明野遺跡、尾崎遺跡でも流紋岩の剥片が出土している。

縄文時代になると、丘陵下に小池原貝塚や、横尾貝塚などの貝塚が形成される。ここでは前期から後期に渡っての土器が検出され、遺構も埋葬・土坑・住居跡などが明らかになった。本年度大分市による横尾貝塚周辺の発掘調査の結果では縄文時代前期の水場遺構も検出されている。一方平Ⅰ遺跡、一方平Ⅱ遺跡では無文・押型文土器、平脊・塞ノ神式土器を主体とした集石炉を伴う遺跡が発見され、一方平Ⅳ遺跡では中期の船元式や後期の西平式土器なども出土している。

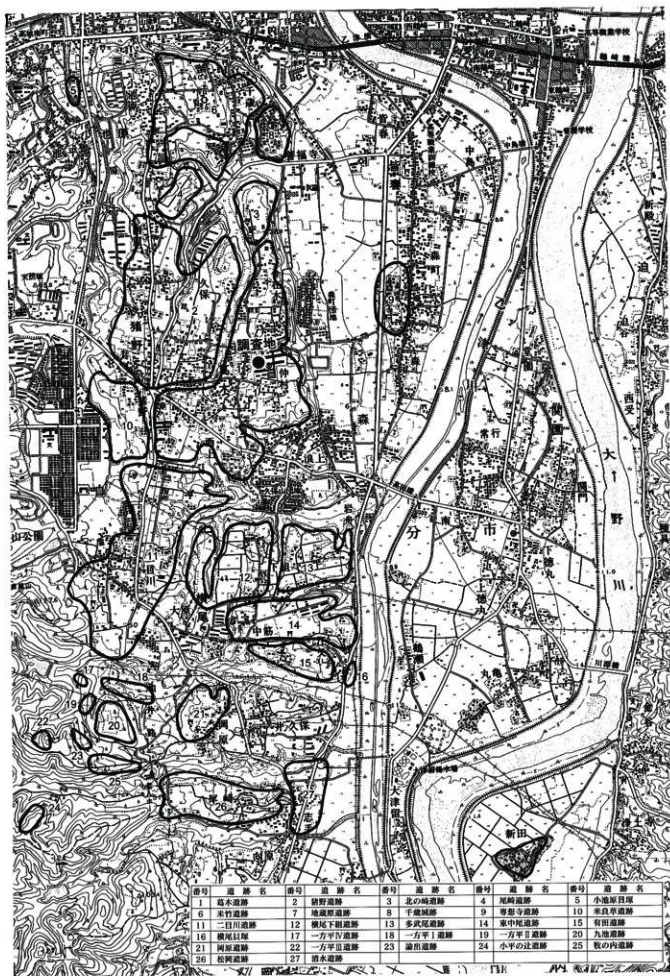
弥生時代になると丘陵上の遺跡数も増加する。早期から前期の段階では遺跡数はまだまだ希薄であるが、刻目突帯文土器を中心とする一方平Ⅳ遺跡や尾崎遺跡が挙げられる。中期～後期の遺跡としては多武尾遺跡、横尾下組遺跡、東中尾遺跡、岡原遺跡、上松岡遺跡、二日川遺跡など特に後期の遺跡数が爆発的に増加する。多武尾遺跡の小銅鐸、水分神社や松岡の京ヶ尾遺跡出土の銅矛は祭祀に伴うものとして注目される。多武尾遺跡の小銅鐸、水分神社や松岡の京ヶ尾遺跡出土の銅矛は祭祀に伴うものとして注目される。

古墳時代では、地藏原遺跡で布留式土器を伴う堅穴住居が、また、毛井遺跡では大規模な集落跡がみられ、松岡の小牧山古墳群や真直石棺、横尾の有田古墳群、横穴墓群としては松岡の一ノ谷横穴群、一ノ谷南横穴群、戸無瀬横穴群などが形成される。

古代の遺跡としては瓦や硯が出土した地蔵原遺跡、古代の道が発見された猪野新土井遺跡、土師器の窯跡の井ノ久保遺跡、スポーツ公園の建設に伴い調査が行われた牧ノ内遺跡、論出遺跡、九池遺跡、円面硯や製埴土器、施軸陶器が出土した二目川遺跡、大量の土師質土器を出土した一方平Ⅲ・上牧ノ内Ⅰ・Ⅱ遺跡など8世紀後半から9世紀前半頃の遺跡が多く見られる。虫喰谷では豊後では初めての須恵器の窯跡である松岡古窯址群も発見されている。



第1図 葛木遺跡の位置



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	葛木遺跡	2	狭野遺跡	3	北の崎遺跡	4	福崎遺跡	5	小島跡目塚
6	本村遺跡	7	地蔵原遺跡	8	千塚遺跡	9	尊徳寺遺跡	10	常良寺遺跡
11	二日川遺跡	12	豊足下遺跡	13	多武死遺跡	14	東中死遺跡	15	有田遺跡
16	南尾山塚	17	一方平Ⅳ遺跡	18	一方平Ⅰ遺跡	19	一方平Ⅱ遺跡	20	九池遺跡
21	河原遺跡	22	一方平Ⅲ遺跡	23	瀨川遺跡	24	小平の辻遺跡	25	牧の内遺跡
26	松岡遺跡	27	清水遺跡						

第2図 葛木遺跡周辺の遺跡

### 第3章 発掘調査の成果

#### 1. 調査の経緯と概要

葛木遺跡の本格的な発掘調査は平成13年(2001年)9月3日から開始した。調査対象面積は700平方メートルである。まず重機により調査区内の表土を剥ぎ取る作業から開始した。立会い調査を実施する以前に整地作業が行われていたために、旧実習棟のコンクリート基礎はすでに抜かれており、地山層はかなり攪乱されていたので、丁寧に地山層の遺構面を検出するのに手間取った。地表面下約50cm~100cmで弥生時代の竪穴住居跡と柱穴を多数検出したが、旧機械実習棟建築の際に地山層まで削平を受けており、遺物包含層は確認できず、竪穴住居も床面を残すのみであった。遺構検出後は遺構の掘下げを行い、すべての調査を9月19日に終了した。

#### 2. 調査の概要

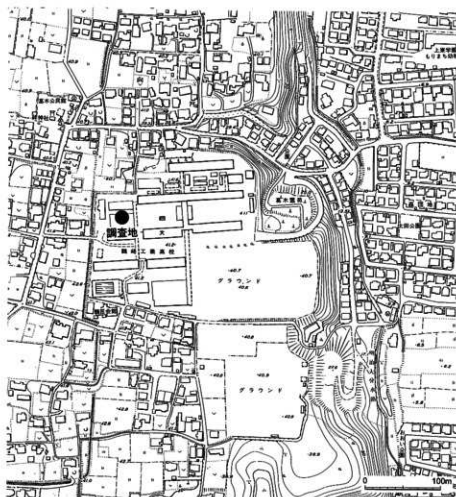
調査面積 約700㎡

遺構 弥生時代後期の竪穴住居1棟および多数のピットを検出した。

遺物 竪穴住居に伴う甕の土器片や攪乱層から古代の土器片が数点出土した。

#### 3. 遺構と遺物

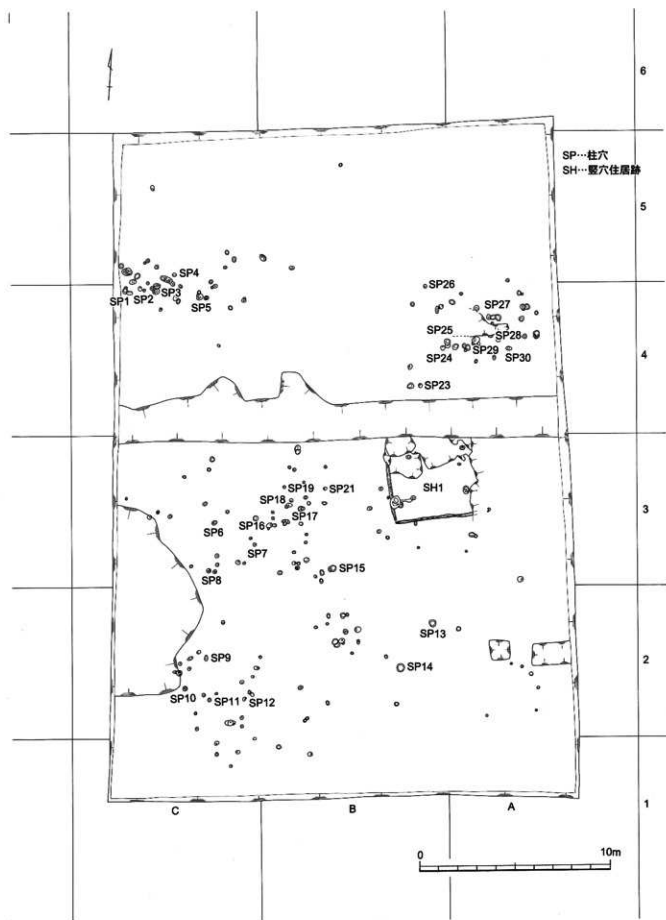
葛木遺跡では弥生時代の竪穴住居跡や多数の柱穴を検出した。これらの遺構については、校舎建築の際の造成や整地によりかなり破壊されており、また、これらの遺構からは若干の遺物を検出したものの、大半が小破片であった。以下、遺構・遺物について遺構ごとに説明を加えていく。



第3図 葛木遺跡周辺地形図



第4図 調査区付近拡大図(1/1250)



第5図 葛木遺跡遺構配置図

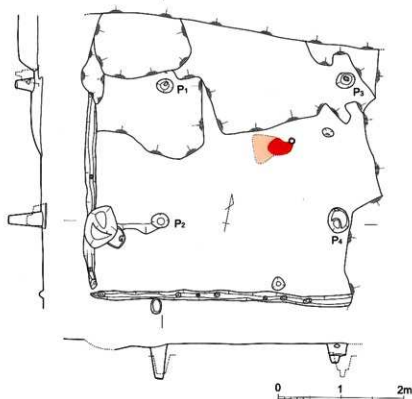


## (1) 古墳時代の遺構と遺物

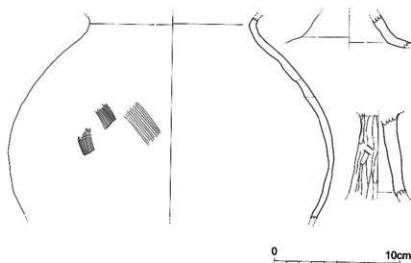
この時期の遺構としては、竪穴住居跡1基を検出した。また、遺物は住居跡の床面や主柱穴の中から出土した。

### SH1(第6図)

調査区中央東側に位置する方形プランの住居跡であるが壁は残っておらず床面のみ確認できた。北壁・東壁・南壁の東端・西壁北端は削平されており、現状で確認できる規模は5.14m×3.24mであり、南壁・西壁沿いに最大深さ12cmの壁溝を有す。床面には複数のピットが存在しているが主柱穴は4本である。また壁溝内には杭列が認められ、中央やや南西よりに深さ0.2mほどの楕円形の土坑を有す。床面中央やや東付近には長径64cm、短径48cmの焼土面が広がって地床炉と思われる。出土遺物はいずれも破片であり、床面や主柱穴内から出土した。



第6図 SH1実測図



第7図 SH1出土遺物実測図

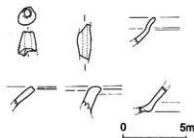
胴部の復元最大径は26cm、頸部の復元径は13.3cm。ローリングが激しいが、内外面共に斜め方向のハケ目調整が認められる。内面は橙色、外面は明赤褐色を呈し、態度に長石、角閃石、石英、赤色粒、砂粒を含む。これらの遺物はその特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の範疇に入ると考える。

### 出土遺物(第7図)

1は土師質土器高杯の脚部から裾部にかけての小片である。低平で大きく開く脚部を有するタイプか。ローリングが激しく内外面共に調整は不明である。橙色を呈し胎土に長石、角閃石、3mm以下の石英白色粒、赤色粒を含む。2は主柱穴P1内から出土した土師質土器高杯の円柱状の脚部である。脚柱中位がやや膨らむいわゆるエンタシス状を呈しており外面には縦方向のヘラ磨きが施され、内面にはヘラ状工具による砂粒が動くぐらいの強いナデが施されているが明確な削り痕は認められない。橙色を呈しており胎土に長石、角閃石、石英、赤色粒を含む。4世紀代の遺物か。3は土師質甕型土器の胴部片である。全体の器形は不明であるが肩部から胴部にかけて緩やかに張り出す。

## (2) その他の遺物(第8図)

出土した遺物はいずれもピット内からで、細片が多く器形・法量ともに不明であるため、ここでは口縁部や底部など比較的固化できるもののみ掲載することにした。4はSP14出土の環状土鍾片である。下部が欠損しており正確な法量は不明である。孔径は0.6cmを測る。焼成は良好で赤褐色を呈す。胎土は精良であり長石、角閃石、白色粒を含む。2も同じくSP14出土。土師質土器杯の口縁部片か。細片のため法量は不明である。口縁下端部外面には横方向に強いナデが施されている。明赤褐色を呈し胎土に角閃石、白色砂粒を含む。6はSP5出土の甕の口縁部か。細片のため法量は不明である。7はSP17出土の甕の口縁部片である。内面は明赤褐色、外面は橙色を呈しており、胎土に長石、角閃石、石英、赤色粒を含む。8はSP11出土。高杯の杯部片か。橙色を呈し胎土に長石、角閃石、石英、3mm大の白色粒を含む。



第8図 その他の遺物実測図

## 第4章 まとめ

葛木遺跡は大野川支流、乙津川の左岸にあたる鶴崎丘陵上に位置し、弥生時代の遺跡の包蔵地として周知されている遺跡である。今回の調査区では、竪穴住居1基と多数のピット群を検出したが、いずれの遺構も旧機械科実習棟建設の際にかなり削平を受けており竪穴住居も床面のみを検出したに過ぎない。この竪穴住居からの出土遺物は少なく、僅かに床面から出土した高杯や甕の破片からおよそ弥生後期末から古墳時代初頭に比定されると考える。多数の柱穴に関しては中から土器の小破片が出土したのみであり、時期決定を行うだけの物証に乏しく時期の比定は困難である。しかし、大分市教育委員会が1995年に鶴崎工業高校の北西に位置する鉾神社の周辺を調査しているが(註)、その際、布留式新装段階に帰属すると考えられる竪穴住居跡と中世の土師器片を内包する柱穴群を検出しており、隣接する今回の調査区周辺にも同時期の遺跡が広がっていたと考えられる。とすれば、今回検出したピット群は中世の遺構である可能性が高い。また、これらのピットの中には円形に並ぶと予想できるものも存在しており、遺物が出土していないものの、弥生時代中期頃の円形プランを持つ竪穴住居跡が存在した可能性も示唆しておきたい。

註 堀地潤一「葛木遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報vol.7』大分市教育委員会 1995

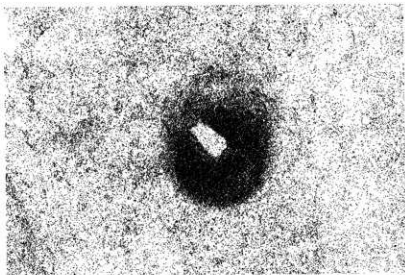
1. 葛木遺跡遠景(南側)



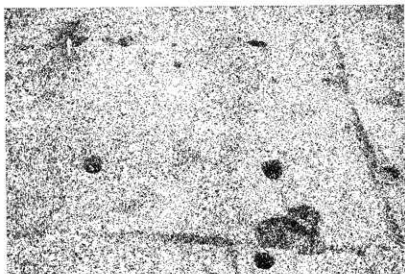
2. 葛木遺跡全景(北側)



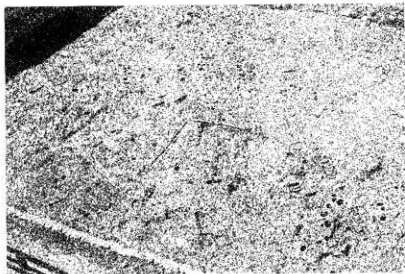
3. 遺物出土状況



4. SH1完掘状況



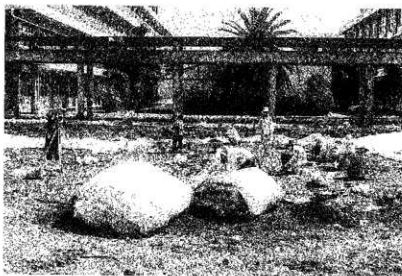
5. SH1遠景



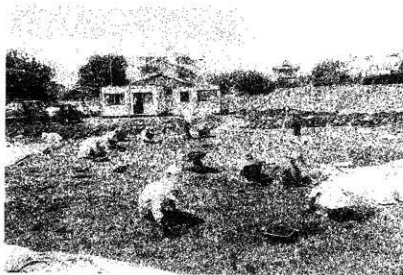
6. 作業風景 1



7. 作業風景 2



8. 作業風景 3



フリガナ	カツラギイセキ
書名	葛木遺跡
副書名	大分県立鶴崎工業高等学校機械科実習棟改修工事に伴う関係埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大分県文化財調査報告書
シリーズ番号	149
編著者	甲斐寿義
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-0021 大分県大分市府内町3-10-1
発行年月日	2003年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	ショザイチ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おつらぎいせき 葛木遺跡	おおいとしゅうがみきせつらぎ 大分市大字葛木 509	322	154	33° 13' 09"	131° 40' 29"	20010903~ 20010919	700	機械科実習 棟改築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
葛木遺跡	集落跡	弥生 中世	竪穴住居跡 柱穴 多数	土器	

## 葛木遺跡

—大分県立鶴崎工業高校機械科実習棟改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—

大分県文化財調査報告書第149巻

- 編集 大分県教育委員会文化課(文化財資料室)  
〒870-1113  
大分市大字中利田字ビワノ門1977番地  
TEL(097)597-5675
- 発行 大分県教育委員会  
〒870-0021  
大分市府内町3丁目10番1号  
TEL(097)536-1111
- 印刷 (株)得丸デザイン印刷